

## CAVOK 2016年航海日誌 NO1

(5月10日(火) Cogolin ~ 5月23日(月) Port Venere)

松崎義邦氏メール(5月25日)

皆様に

今年も5月より7年目になる地中海クルージングをスタートしました。今年の航海は昨年のルートを少々変えて戻る形で南仏よりジェノバ、チンクエ・テッレ、ポルトベネーレを再訪してコルシカ島、サルデーニャ島、シチリア島、南イタリア、イオニア海を經由してギリシャ・ペロポネソス半島の西側を抜けエーゲ海に入る予定です。そしてクレタ島で越冬を予定をしています。

私は、4月12日にCAVOK5の越冬地南仏サン・トロペに来て艇を近くのコゴランにあるドッグのモナコ・マリーンに移して整備をしました。ドッグでは上架して船底塗料をはじめシーコックの取り換え、リギンチェック、エンジンの定期整備、コックピットのテーブルのニス塗り、電動ウインチの取り付け等々しました。電動ウインチは取り付けに時間を要して結局完了したのは5月12日になってしまいました。

5月10日に悦子、12日にヨット部同期の日比谷夫妻、逗葉ヨットクラブOBの磯夫妻が来艇して賑やかに今年の航海が始まりました。カンヌ、ニース、モナコ等を陸路で観光をした後15日にコゴランを出港してマントンからイタリアのインペリア、ジェノバ、ポルトフィノを經由してポルトベネーレに到着しました。ポルトフィノではAクラスディンギー大会を洋上から観戦出来たり、ポルトフィノとポルトベネーレの間ではチンクエッテレの村々を海から眺めたり楽しむことが出来ました。幸い好天と順風に恵まれ快調なセーリングが続けられました。ポルトベネーレは港そのものが世界遺産でその中に繋留して、今度は陸路チンクレッテルの村を訪問しました。この間丁度南西の強風リベッチオが吹き風待ちをしました。その後エルバ島経由コルシカ島そしてサルデーニャ島まで日比谷、磯夫妻とクルージングを予定しています。

Port Venere にて

CAVOK 5 松崎義邦

写真の添付

1. コゴラン、モナコ・マリーンでのCAVOK5の上架
2. 日比谷夫妻、磯夫妻と船内で食事
3. マントン旧市街

- 4 . ジェノバのマリーナ
- 5 . ポルトフィノでのAクラスディンギー大会
- 6 . チンクエ・テッレ (リオマッジョーレ村)
- 7 . 南西の強風 リベッチオ

## 2016年 CAVOKV 航海日誌(1)

5月10日(火) Cogolin 曇り時々雨

サントロペの近郊のコゴランに来て約1か月が経ったが未だ電動ウインチの取り付けが出来てない。部品の到着が遅れたり、取り付けの為の細工が必要だったりして延び延びになっている。

ヨット部同期の日比谷夫妻と逗葉ヨットクラブOBの磯夫妻が12日に来るので今週中に取り付けが出来る様厳命しているが心配だ。

今日は電動ウインチを取り付けるためのマウントの工作と囲いの作製をした。

私は艇の片付けをして夕方8時過ぎにニース空港に着く悦子を迎えに行く。

ほぼ予定通り悦子は到着する。久しぶりに会った悦子と話に夢中になっているうちに高速道路 A8 のサントロペに向かうインターチェンジを通過して気が付いたときは大分遠くまで行っていた。途中雷鳴と伴に霰が降った。まだまだ春の天気で南仏も安定していない。

結局夜中の1時過ぎにコゴラン・マリーナにあるモナコ・マリンのドッグに停泊しているCAVOK5に到着する。無事到着を祝いシャンペンで乾杯して眠りにつく。



5月11日(水) Cogolin 曇り時折小雨

今日も曇り時折小雨がぱらつくお天気だ。悦子は荷物の整理をする。明日来る日比谷夫妻、磯夫妻の受け入れ準備をする。ウインチの件は細工の部分の部品が未だ届いていないということで明日届き12日には完了するとの事だった。

明日はお昼にモナコにお住いのKostiaさん宅にお邪魔する予定だ。日比谷、磯夫妻をニース空港に迎えに行くためのレンタカーを手配する。今までも小型の車をレンタルしていたが全員乗り切れないので大きな車にした。

夕方近くのスーパーで買い物した後、コゴラン・マリーナ内にあるレストランで烏賊のアヒージョ、ムール貝、ニソワーズサラダ、ポテトをプロバンス産白ワインで食べる。

5月12日(木) Cogolin 晴れ

今日は日比谷夫妻、磯夫妻がニースに到着する日だ。Kostiaさんにお昼の招待を受けているのでレンタカーを10時に借りてモナコに向かう。Kostia宅では大歓迎を受ける。奥様の麻記さんが鴨料理を用意してくれ、Kostiaさんのお父さんのGeraldさんのコレクションだった1988年の赤ワインで頂く。燦爛と輝く太陽が地中海を照らし眼下のマリーナを見ながらのKostia邸での昼食は極上だった。そのあとモナコグランプリ開催前のイベントでクラシックカーの展示会があった。1925年からのレースカーの姿は人間と機械との調和された芸術に感じた。

そのあと麻記さんが一緒にニース空港まで行ってくれた。日比谷夫妻、磯夫妻が元気な姿で現れ再会を祝す。

麻記さんがわざわざニース空港から1時間30分以上掛かるコゴランまで送ってくれる。感謝のしようがないほど親切にして頂いた。

艇に着いて荷物の整理をした後シャンパンで乾杯して歓迎する。これから仲間とのクルージングが楽しみだ。



5月13日(金) Cogolin 曇り

クロワッサンとオレンジとコーヒーの朝食の後カンヌ観光に行く。丁度カンヌ映画祭で混雑していた。前年10日ほど滞在したところなので懐かしかった。

今日は6人なので外食で色々の種類が食べれてうれしい。お昼烏賊リング、ピцца、サーモンのカルパッチョ、そして本場のニソワーズサラダ等々食べるがいずれも美味しかった。

香水の町グラスに寄る予定だったがモナコ・マリーンでのウインチの取り付け完了の確認と明日から土日に入りモナコ・マリーンが休みに入るので清算の為グラスはあきらめてオフィスが開いているうちに帰る。一番心配していた電動ウインチの取り付けが無事終わっていたのでほっとする。

これで今年の航海のスタートが切れる。

これからの航海の食料を近くの大きなスーパー“ジェーン”で揃える。

マリナーのシャワーを浴びた後、ステーキを囲んで赤ワインで盛り上がる。

5月14日(土) Cogolin 晴れ、夕方驟雨

朝起きると快晴だ。バグゲットにバター、ジャムを塗ってコーヒーで食べる。パン、バター、ジャムの三拍子が美味しい。

今日はエズ、ニース観光なので9時に出発する。ニース海岸は燦燦と照らす太陽の光を浴びて何とも言えない紺碧の色彩を醸し出していた。まさにコートダジュールだった。

そのあとヴィラフランシェの湾を囲む道を走りエズ観光をする。ここでお昼を食べるがこれまた当たりであった。生ハムフルーツサラダ、カルボナーラニュッキ、トリフのリゾット、クラシックバーガーを食べるがどれも手が込んでいて美味しかった。

夕方5時前にCAVOK5に帰るが山からの積乱雲の崩れがきて小雨が降る。

明日出港なのでレンタカーを返す。シャワーを浴びてからジンライムを飲みながらマコちゃんと将棋をする。残念ながら食事の時間になりドローゲームになった。

夕食は9時頃になってしまったが、ローストチキン、野菜サラダをロゼで食べる。仕上げはみそ汁とご飯で美味しく頂く。

明日はMentonに向け7:30に出港することにして寝る。

5月15日(日) Cogolin~Menton(55NM) 快晴

延び延びになった電動ウインチの取り付けも終わり、風も収まったので陸路楽しんだコートダジュールにお別れして一気にフレンチリビエラまで行くことにする。

7時20分に舳いを解く。静かなガルフ・ド・サントロペを走りながら朝食をお握りとみそ汁で頂く。

北からの良い風に乗って帆走を楽しむ。青空と後ろからのブリーズで心地良い帆走で、カンヌ、ニース、ヴィラフランシェ、モナコを沖から見ながらマントンに着く。最初町に

便利な旧港に行くが繋留出来るスペースがなさそうなので隣の新港のガバランス・マリナーナに入る。日曜日のせいか無線で呼んでも応答無いのでガソリンスタンドに着けてから、キャプテリアに行って繋留場所を指示してもらう。

入港前に陸からのちぎれ雲からの雨があったが17:30にポンツーンに着ける。

まだまだ陽は高い。モヒートで乾杯する。夕食はポテトサラダ、野菜サラダ、豚肉のソテーを赤ワインで頂く。豚肉が柔らかくとても美味しかった。

5月16日(月) Menton 晴れ

午前中今回日本から持っていった小型洗濯機で洗濯を試みる。量は入らないがポロシャツ4枚は問題なく洗浄まで自動でできた。持ってきた甲斐がありそうだ。

マントンはイタリアとの国境から直ぐの町だが避寒地として大変栄えたところだ。パロック建築の美しい街並みが港を見下ろすように上に伸びている。



朝食後マントンの旧市街地を歩いてからジャン・コクトーの美術館を見学して海辺のレストランでムール貝とイワシのグリルを食べる。空の青と海の青が素晴らしい景色を作っている。未だ海辺のビーチのサンデッキはまばらな海水浴客がいるだけだった。

艇に戻り各自それぞれのんびり過ごす。夕暮れ時の光に照らされた海と建物の調和は素晴らしい光景を醸し出していた。マコと私はその中で将棋を楽しむ。

夕食はパテと生ハム、メインはモッツレラ、トマトのチキン・シチュウをロゼワインで頂く。

9時になっても未だ外は明るい。

5月17日(火) Menton ~ Imperia ( 25 NM ) 晴れ

朝食後 9時に舫いを解く。静かな海をマンTONの旧市街地の素敵な情景を見ながら出港する。

青い海と刺すような南仏の日射が心地良い。そして海辺にある村々の色彩がきれいな建物の景色が目を楽しませてくれる。昼前より南東の20ノット弱の風が吹き出し、機走から帆走に移りクローズホールドのセーリングを楽しむ。音楽はカンツオーネを流す。イタリアにはカンツオーネがやっぱり似合う。海図上の国境を通過して表敬旗をフランスからイタリアの国旗に代える。機走で直進する艇と競争するが少々向かい風の為タックが必要で大分負ける。但しこちらはのんびりクルーズなのでセーリングを楽しんで14:20にインペリアのマリーナに入る。とっても大きなマリーナで端から端までは歩いては行くには大変だ。

入港時必要な書類をキャプテリニアにもっていこうとすると近くに泊めている英国人はあんな遠くにあるキャプテネリニアまで持っていく必要はないよと教えてくれる。マリーナも繫留料が必要だからほっておけば取りに来ると教えてくれた。まじめな我々は自転車に乗って探していくが英国人の言う通り遠かった。

夕食はスタッフド・ズキーニデフィーリ、アスパラ炒め、トマトとグリーンサラダ、ご飯をロゼワインで頂く。

5月18日(水) Imperia ~ Genova ( 52 NM ) 晴れ

朝借りているトイレのキーを取りに来るようVHFで呼ぶとスタッフがデポジットの10€をもって取りに来てくれる。07:30予定通りもやいを解く。静かな海面をジェノバに向かう。朝早い出港の時は出てからおにぎりをみそ汁で食べるのが通常になっている。今日もそのパターンだ。暫く機帆走するが10時過ぎから風が後ろに回りジェネカーを揚げる。進路北東で風は南から8~12ノットの良い風だ。艇速も6ノット以上で青い海と空、そして燦燦と輝く太陽を浴びながら快適なセーリングを楽しむ。

ジェノバは中世のイタリアの4大海洋都市共和国の一つだ。2011年に入港して二度目になるが海が好きな男にとって海からの訪問は格別だ。16世紀にヨーロッパの富を集めて栄えた都市だ。

一番奥のそして旧市街地に近いMarina Port Anticoに17:30に繫留する。

いつもの通り繫留してからビールで乾杯する。これも楽しみの一つだ。

イタリア料理の美味しい店をキャプテネリニアで聞いてから世界遺産でもある旧市街地のガルバルティ通りを散策する。時間も遅くなったので館内の見学は明日にして教わったお



店“SOHO”でイタリアの料理をリーグリア産白ワインで食べる。

魚介類の温サラダ、エビ入り冷製テリーヌ、フェトチーネ、リゾット、鴨胸肉のグリルの

フルーツソースかけ、スッタフッドカラマリ、デザートにパンナコッタとレモンソルベをカップチーノで仕上げる。どれもが手の込んだ絶品の味で地元産白ワインと大変美味しく頂く。今までの外食は全て当たりだ。

艇に戻りシャワーを浴びてから寝る前にマコと一局差す。



5月19日 Genova 曇り時々雷鳴、雨

今日はジェノバの観光をする。最初にガリバルディ通りに行き、16、7世紀の遺産であるロッソ館とピアンコ館を観る。素晴らしい16、17世紀の絵画の博物館にもなっている。

16世紀はジェノバの世紀であったのが如実にわかる。

その後に王宮を回り、マリーナの近くにあるマリーナで教えてもらったイタリアン料理のオステリアでお昼を食べる。地元の人しか行けないような裏道にある店で訪ねながら探す。古きイタリアの雰囲気を持つオステリアでカラマリフライ、カラスミパスタ、海の幸フライ、ラザーニアジュノベーゼをロゼワインで食べるがこれまた美味しかった。今まで地元の人のお薦めの店に行っているせいかな全て美味しく食べている。

お昼と云っても終わるのが3時でそのあとヨーロッパ一番といわれる水族館を見学する。

一日の観光が終わり艇に戻ったのが5時になる。それぞれシャワーを浴びた後、マコのキノコのアヒージョで夜の部が始まりロゼ、赤ワインと進む。キノコのアヒージョの後ムール貝のアヒージョを頂き、その後アヒージョのオリーブスープを使いラ・メール・パスタを頂く。食事中一時風が強くなりバウ舳いの増し詰めをする。

5月20日(金) Genova~Portofino(15NM) 快晴 北10~20ノット

昨日と打って変わっての快晴の天気だ。風も北風で今日の目的地ポルトフィノにはフリーで行ける。15NMと近いのでシャワールームにあるコンランドリーで皆さんの洗濯物を洗濯する。朝食を取った後鍵をキャプテネリニアに返しに行くとは是非エルバ島にと勧められる。10:20に舳いを解きイタリア最大の港を出てから横からの20ノット近い風を受けてメインセールだけで6ノットで帆走する。波もなく快晴の中気持ち良いセーリングを楽しむ。天気、風の具合を見ながら出港するので快適なセーリングが多い。

14時にポルトフィノに着くが12フィッター(Aクラスデインギー)のイタリア大会が開催されていたのでレース海面で観戦する。15:00にポルトフィノの隣の入り江にアンカーを打つ。ここは深く25m水深の場所に60mチェーンを伸ばす。



ラバーボートを降ろしてエンジンをかけてみるとかからない。仕方がないのでマコと二



人でラバーボートを漕いでポルトフィノに行く。メンテナンスサービスを探したが無く。水上タクシーで艇に残っている仲間を迎えに行ってもらう。往復20€でやってくれた。

ポルトフィノは油壺に似た入り江の天然の港にレストラン、ショップが軒を並べ美しい。山の中腹にはスプレッドホテルが湾を眺めるように建っている。

100隻以上の12フィッターのレースだったがその中の10隻以上の艇がここに帰ってきていた。

水温は18度で冷たいが海に浸かってからシャワーを浴びる。

夕食は静かな入り江の中でジントニックを楽しんだ後、野菜サラダとパエリアをロゼワインで頂く。月も満月に近づいてきた。

静かな夜を楽しんで寝る。

5月21日(土) Portofino~Porto Venere (33NM) 快晴 北の微風から南の微風へ

夜中2回ほど起きて錨泊の様子を見るが風もなく何ら問題がない。ほぼ満月の月が海面を照らして美しい。素晴らしい快晴の下コックピットで朝食を食べてから8:30にアンカーを揚げる。揚げる時チェーンがアンカーウエルで、とぐろを巻きアンカーの取り入れ口が詰まるのでとぐろを足でどけながら揚げなければならないのが余計だ。とぐろが出来なければコックピットから揚げられるのだが。

出てから20NM過ぎると今回の目玉でもあるチンクエ・テッレの最初のモンテロツォル・マーレの沖を通る。そのあとヴェルナッツア沖に行くが多くの観光客が来ている。黄色やオレンジ色の建物が狭い範囲で密集している。次に天空の集落コルニリアの下に行く。崖の上にある集落だ。次は城塞の村マナローラを見て最後にリオマッジョーレの沖合を通過する。いずれも大変な数の観光客だった。

ポルトベネーレと島の間海峡を通過してポルトベネーレの港に入る。無線で泊りのリクエストをすると予約が無いとの返事、暫くしてからOKの返事が来る。昨日インターネットで予約を入れておいたが、後でメールの返事をみたら今日はいっぱいで明日からならOKとの返事であったのが後でメールを開いて分かった。それを知らず無線で呼んだことになる。スタッフの話では一隻キャンセルがあったのでOKだとの事だった。人気の場所だ。

港の中の景観は黄色、ピンク、オレンジの高い建物が軒を並べ中世の魅力ある雰囲気だ。

ここも2011年に来たところだが何度来ても素晴らしい。

船外機のエンジンがかからなかったのでスタッフにメカニックが居るか聞くと、ここには居ないとの事。彼が見てくれることになり、見てもらうとなんと燃料タンクのコックのスイッチの入れ間違いであった。

静かな夕暮れ時に西の岬にあるサンピエトロ教会とパイロンが愛した海を見下ろす崖ぶちの道を歩く。向かいの島との静かな海面の海峡をヨットが通過していく。

海洋王国ジェノバの要塞港に23日が悪天の為3泊することにする。

夕食は奥さん方に休んでもらいますマコがコクのある鶏肉スープカレーを作ってくれご馳走

になるが流石味の素出身素晴らしい味のスープカレーであった。

5月22日(日) Portovenere 快晴

今日はチンクエ・テッレの村を鉄道で観光することにする。素晴らしい快晴の朝だ。

バスでイタリア海軍の基地のあるスペツツアに行き、そこから鉄道で最初の村リオマッジョーレ駅で降りる。周遊券で乗り降り自由な切符を買った。ここから次の村マナローラに歩いていく予定だったが岸壁沿いにある風光明媚な“愛の道”が閉鎖との事小さな港を見て4つ目の村ヴェルナツァに鉄道で移動する。



日曜日の関係もあり何処も大勢の観光客でにぎわっていた。

ヴェルナツァの港では海水浴や日光浴を楽しんでいた。サラセンの塔に登りリゲーリア海と美しいヴェルナツァの村の景色を楽しむ。お昼は港の前のレストランでタコとポテト、イワシのスパゲティ、ムール貝のトマトソースパスタ、くるみソースのラビオリ、海の幸フライをチンクエ・テッレ産白ワインで食べる。ワインも流石チンクエ・テッレ産だけあってドライで尚且つコクがあり素晴らしかった。又海の幸の料理には大満足した。

食後波止場の岩場で横になり小休止をしてから鉄道、バスを乗り継いで艇に戻る。

夕食前にマコと将棋を楽しむ。

夕食はご飯にほぐし鮭、ちりめん雑魚、フキ味噌、そして昨晚のスープカレーをみそ汁

で頂く。お昼がヘビーだったのでお腹にピッタリの食事であった。

5月23日(月) Port Venere 曇り、朝雨、南西の強風

南西の強風“リベッチオ”が一日中吹く予報なので休養日になる。

リベッチオはテレニア海に吹く秋から冬にかけて吹く南西ないし西からの強風だが世界の気象が異常になってきているせいか季節外れの季節風だ。

各自思い思いの一日を過ごすことにした。

港の中も揺れが強い。奥様方は艇に籠り読書と惰眠をむさぼる。お昼には満里子さんが揺れる艇の中でラビオリを用意してくれる。

この強風の中でも湾内でセーリングしているヨットがいた。夕食は満里子さんが艇に残っている食材を使ってポテトサラダ、ソーメンチャンプルと雑炊を作ってくれて赤ワインと焼酎で楽しむ。夕餉の食事はとっても楽しい。散々飲んだ後眠りにつく。

